

令和8年度 鈴鹿市立平田野中学校「学校経営の改革方針」

1 めざす学校像（基本理念）

【学校教育目標】

「主体的に考え学び合い、主体的に行動できる生徒の育成」

【めざす学校像】

みんなが安心して過ごせる居心地の良い学校

- (1) 互いに認め合い、子どもも教師も笑顔になれる学校
- (2) 地域や保護者に信頼され、ともに創り上げる学校

2 めざす生徒像

- (1) 確かな学力を身につけ、自らすすんで学習する【やりぬく力】
- (2) 自分を信じ、他者と響き合い、未知の問いに挑み続ける【自己肯定感】
- (3) 規律ある生活習慣と正しい行動力を身につける【自制心】
- (4) 健康や安全について真剣に考え、自他の命を大切にする【社会性】

3 現状と課題

- (1) 学力保障・学力向上について
 - 「アンケート調査では「めあて」の明示および「振り返り」の取組が市平均以上に進んでいるものの、それが学力向上につながっていない。
 - 「全国学調」「みえスタ」のデータを分析したところ問題文の読み取りが不十分なための誤答が目立つ。
- (2) 長期欠席対策について
 - 不登校生徒人数は前年度よりわずかに減ったものの、依然として多い現状がある。
 - 2学期以降欠席が増えている生徒がいることも課題である。
- (3) 非認知能力の育成について
 - 生徒を支援する方向で教員が取り組んでいるが、「自制心」に関する質問の否定的割合は6月から11月で微増している。
 - 「自制心」「自己肯定感」「社会性」については、目標とする指標（「自制心」「自己肯定感」10%未満「社会性」1.8%未満）に達していない。
- (4) 校区及び地域連携と協働について
 - 校区でお互いに授業公開ウィークを設定するなどして交流を始めたところで、まだまだ参観者が少ないのが現状であり、今後の課題である。
 - 来年度の平田野中学校が鈴教研委託発表をするにあたって、校区として連携した取り組みをしていく必要がある。
 - 地域行事への参加がまだまだ少ないのが課題である。
- (5) 働きやすい職場づくりについて
 - 学校教育活動改善に係る保護者アンケートにおいて、市平均より大きく上回っている項目もあるが、3ポイント以上下回っている項目があるのが課題といえる。
 - 時間外労働時間はかなり抑制することができた一方、休暇取得日数は、前年度と

比べて大きな改善が見られない点は課題である。

4 重点目標

- (1) 学力保障・学力向上について
- (2) 長期欠席対策について
- (3) 非認知能力の育成について
- (4) 校区及び地域連携と協働について
- (5) 信頼される学校と働きやすい職場づくりについて

5 本年度の具体的行動計画

(1) 学力保障・学力向上について

- 「めあて」と「振り返り」の質的向上を図る。
アンケート調査では「めあて」の明示および「振り返り」の取組が市平均以上に進んでいるものの、それが学力向上につながっていないという課題がある。そのため、これまでの「めあて」「振り返り」を見直し、授業で理解したことが定着できるための改善を行う。
- 「全国学調」「みえスタ」のデータを分析、活用し、特に弱みである読解力の向上に向けて取り組む。具体的には、授業での取組や、定期テストにおいて、読解力を要する問題を解く機会をとるとともに、読書活動を推奨し、基本的な読み取り能力を高める。
- 一人一台端末の積極的、効果的な活用を推進する。
授業での端末利用頻度 週3回以上 90%以上
- 授業での協働的な学びの場面や「振り返り」、家庭学習におけるドリルパークの活用などを積極的に推進し、学力向上に役立てる。
- 対話的な学び合いの場、表現する場を意識的に設定する。
来年度の鈴教研委託発表に向けて、他者との協働的な学びによって自分の考えを深化させられるよう、探求のプロセスを活用した授業に取り組む。
＜目標値＞授業中、自分の考えと比較しながら、友だちの考えを聞いている
肯定割合 85%以上

(2) 長期欠席対策について

生徒が安心して過ごせる生活環境を整えるための方策として、以下の取組を進める。

- 学校に登校するのが楽しいと感じる生徒の増加を目指す。
＜目標値＞学校に登校するのが楽しい 肯定割合 85.0%以上
- ティチャーズ・コーナーを有効に活用し、「子どもの声に耳を傾ける＝話を聴く」ことを意識した細やかな生徒観察やコミュニケーションを構築
- 教育相談期間の定期的設定
- 毎週行う部会による、きめ細かな情報の共有
- 支援ファイル・こども支援シートを活用した個に応じた支援の充実

(3) 非認知能力の育成について

- ぐっじょぶさん（いいとこみつけ）の取組を進め、生徒の自己肯定感を高める。
- 生徒支援の立場で指導にあたり、生徒の自制心を育てる。
- ICTを活用した個別最適化の促進や、生徒への適切な声掛けを行い、あきらめずに取り組む姿勢を育てる。
- 「協働的な学習」を通して、互いに協力する姿勢を育てる。
- 「非認知能力アンケート」の否定的回答割合

＜目標値＞

「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」10%未満

「社会性」1.8%未満

(4) 校区及び地域連携と協働について

校区連携

- 非認知能力の調査結果を共有し、校区の共通の課題を把握し、9年間を見通した改善策を協議
- 自己肯定感を高める取組として、「ぐっじょぶさん」を活用
- 次年度の鈴教研委託校発表に向け、校区で連携した取組を進める。

地域連携

- 地域に開かれた学校づくりを進める

＜目標値＞生徒の様子を見る機会が十分にある 85.0%以上

- 学校運営協議会の開催（校区学校運営協議会含む）年6回以上
- 学校ホームページの更新および学校だより・学年通信の配付を通して、学校生活の様子を保護者・地域に発信し、保護者からの問い合わせに対しても真摯な態度で対応することを心掛ける。

＜目標値＞学校からの情報を積極的に発信している 85.0%以上

- まちづくり協議会と連携し、積極的な参加を呼びかける。

(5) 働きやすい職場づくりについて

- 教職員間の情報共有がスムーズに行えるような雰囲気づくりに努め、校務についても可能な限り作業分担を行えるようにし、休暇取得がしやすい職場となるようにする。

＜目標値＞

年360時間、月45時間を超える時間外教職員 0人

（昨年 360時間以上/年：昨年6名、45時間以上/月：のべ49名）

時間外労働 月平均23時間（昨年平均：月27.1時間）

休暇取得 平均23日（昨年平均：年間19.6日）

部活動休養日を計画通り実施した割合 100%

定時退校日を週2日設定し退校できる職員の割合 100%

放課後開催の会議 60分以内に終了する割合 100%